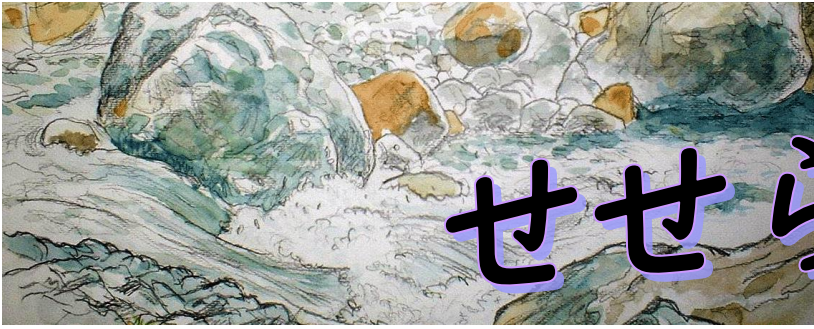


せせらぎ通信



冊子

「改訂版金目川の魚類」と

「金目川のエビ・カニ」の発行にゆせて

北野忠(東海大学教養学部)

私が勤める東海大学の近くを流れる金目川にすむ魚だけをまとめた冊子「金目川の魚類」(以下、初版)を、当時のゼミ/学生であった西巻尚君とともに作成し、金目川水系流域ネットワークの協力をいただいで発行したのが2018年3月のことでした。

お配りした方からはこの冊子は好評で、さらには何人かの方から「ぜひ欲しい」というご連絡をいただくこともありました。

その初版の発行後も、学生と一緒に金目川で調査を続けてきましたが、初版の発行時までは金目川では未発見であった種が新たに見つかったり、写真を載せることができなかった種を採集したりしたこと、少しずい知見や写真が増えていきました。

また、以前にはあまり姿を見かけなかった種が金目川水系のあちこちで普通にみられるようになったり、逆に、かつては姿を見かけることができた種が、その後みられなくなったりと、生息状況がずいぶん変わった種もいました。



さて、少し話は変わりますが、川での採集で、魚類と同じように網に入る分類群としてはエビ・カニといった甲殻類が挙げられます。そこで2021年度より、ゼミの学生と一緒に、金目川に生息するエビ・カニの生息状況を明らかにしてきました。

金目川水系のあちこちに出かけて、いろいろな種がいるのかを調べてきたのです。そうしたら、エビ・カニ類も種によって好きな環境が異なることがわかってきた一方で、見た目がよく似ているものも多く、採集してもなんとという種が悩むこともしばしばありました。

そのため、魚類だけでなく金目川にすむエビ・カニ類だけをまとめた冊子の必要性も感じていました。

エビ・カニ類の生息状況調査をしていく中で、卒業研究に取り組み4年生となったゼミ/学生の滝田裕貴君と西嶋純平君の二人がエビ・カニ類にとっても興味をもってくれました。

滝田君は平塚市出身で、西嶋君も金目川の近くにあり、金目川は身近で関心のある川だったそうです。西嶋君は九州の福岡出身ですが、幼いころから生き物が好きで、図鑑を読んだり、川に採集に出かけていたのだそうです。

「このような背景もあって、「改訂版金目川の魚類」以下、改訂版」と、新たに「金目川のエビ・カニ」以下、「エビ・カニ」を作成したいと思うようになりました。

そこで、2021年度の終わりにさだたかと思いましたが、ネットワークの柳川さんと岩本さんに相談したところ、発行に関して協力していただけるというので、実際に冊子の作成が始まったのです。

改訂版については私(北野)が担当することとし、基本的には初版の体裁をそのまま用い、新しい知見と新たに撮影した写真を加えて作成しました。

初版と比べて掲載種が5種増え、写真も10枚以上差し替えています。

「ラムも2点加えたほか、いへつかの種の学名の変更や、生息状況の新知見も加えました。このため、情報量が増えたことで改訂版では全体で20ページ増えました。

一方、エビ・カニについては卒業研究の一環として大滝君と西嶋君の二人が担当しました。このうち基本は「金目川の魚類」の体裁を踏襲しつつ、甲殻類については、表紙の色を青から赤に変えました。



また一人の発案で、エビやカニの形態や生活史、専門用語の説明のページを設けたほか、各種のページにおいては、確認できた地点を細かい水系ごとで示すとともに、すべての調査地点の中で実際に確認できた地点をフロッピーした地図も載せました。この冊子を作成するために、彼ら二人は金目川水系の

115地点で調査しています。

何度も出かけている場所もあり、調査回数もはもつと多いです。同じ日にいへつかの

の地点で調査したこともあつて、いへつかに3回1度の割合で調査に出かけていたことになりました。

なお、その調査においてはい計24種を確認するつもりが、過去に記録があるものの

今回の調査では確認できなかった3種を加え、2種を冊子に掲載しました。

エビ・カニの作成において、彼らが苦労したのは写真の撮影です。魚類の改訂版とは異なり、すべての写真を新たに撮る必要があったからです。

調査から帰ってきて、へとへとになりながら撮影する姿を何度も見えました。でも、それ以上に一番頭を悩ませたのは、種の判別でした。特に、カニ類は非常によく似た種がいて、区別することが容易でなかったのです。最終的には、我々ではお手上げというところで、専門家を訪ねて標本を直接みていただいたり、メールで写真を送り「意見を賜ったりしました。そうしたところ、いへつかの種は、草稿の時点では種の判別が間違っていたこともわかり、慌てて修正したのでした。

このような苦労がありました。が、「金目川の魚類」の初版が発行されてから5年後の2023年3月に、「改訂版金目川の魚類」と、「金目川のエビ・カニ」が発行されました。これらを手にして金目川に出かければ、魚類やエビ・カニのことが詳しくわかるはずですが、でも、わずが5年で新たに5種の魚類が発見されました。いへつかにいへつかは河口域の調査が不十分ですので、調べればまだまだ新たな発見はあつていへつ。

これからますます学生と一緒に調査を続けていへつ予定ですが、またいつか第三版金目川の魚類」と改訂版金目川のエビ・カニを発行できるのをめざしていきたいと考えています。

なお、本筆とはいへつますが、いへつらの発行にはネットワークの協力もいただきました。この日記を改めてお礼申し上げます。

丹沢大山の森と

金目川と

相模の海のつながり

柳川三郎

森と川と海のつながりについて、森の落ち葉は土を作り、土はきれいな水を作ります。

水は金目川となって相模湾に流れ、魚介類を育てます。このようなことは誰でも小学生でも知っている当たり前の事です。今がどうなのかな？



2022年12月霜柱

生き物で珍しいものや貴重なものは保護されやすいが、どこにでもいるものや、当たり前のことを守るじじがむずかしいくなってきました。

昔から、当たり前にあるものの価値を理解することは難しい。

水は地球上のすべての生物にとって貴重なものです。川の水を汚してはならないことや、川にものを捨ててはならないことは当たり前の事です。川原でバーベキューで楽しんだ後は、後片づけをしていくことは当たり前の事です、
例をあげればきりが無いのが現状なのです。



1954年 金目大堤付近

今流れている川の water は、雨が降ると増水いたしますけど、その水の中に、遠い昔の弥生時代に森に降った雨の一滴のしずくも含まれているとしたら、せつとせつと水を大事にするべしじじ。

明治36年国定教科書制度交付
尋常小学読本5(文部省著作)

その中に「水のタビ」があります
単元(一)

ワタクシハ水ノヒトシズクデス。ハジメハ山ノ土ノ中ニイマシタガ、湧水スルト、グングンナカマガフエテ小川ニナツテ、山ト山トナイダノ谷ニオリマシタ。谷川トナリ、滝ガアラワレ、平野ヲ流レル川トナリ魚ガアラワレル。

単元(二)

田ヤ畑ノ中ヲ流レ橋ガアラワレ、ヤガテ町ノ中ヲ流レル。町ノ中ニハ立派ナ家ガ並ビ、鉄ノ橋ヤ石ノ橋ガカケテアツテ人ヤ馬車ノ往来、船ガアラワレル。



2011年 金目川土手芝さくら植え



2022 11.22 金目川生き物クラブ

「橋ヲ人ガイソガシソウニ、通ツテイマシタ。ソレカラ、少シタツテ、私共ノ上ニ重イモノガノリマシタ。船トイウモノデシタ。カイトイウモノデ、私共ヲカキマシタ」ソレカラ私タチ水ハ広イトコロニ出マシタ。水ガタクサンアツマツテイルトコロヲ海トイイマス。以前「日本は物で栄えて、心で滅びる」と言った人がいたが、生活水準や物質的豊かさはGDPで表されるが、自然環境の豊かさや良好な人間関係も大切と思っています。

昔から、金目川には地域の人たちが共同で川・水を守りぬくこの尊い習慣が根付いて、継続を強く願っています。



湘南里川づくりフォーラム 2023 について

(右) 今後について話し合う様子



(右) クイズに回答している様子



「湘南里川づくりフォーラム2023」を開催しました！

5月14日(日)、平塚市松原公民館で「湘南里川づくりみんなの会」主催でフォーラムを開催しました。新型コロナウイルスが5類感染症へ変更されたこともあり、3年ぶりに対面で行われました。

みんなの会の会員による活動報告や、今後の活動について意見交換などを行いました。前年度はコロナ禍で制限の多い中、それぞれ工夫して活動を行いました。意見交換では、湘南里川見守り隊の皆様によって活発な議論が行われ、今後のより活発な活動に向けて有意義な時間となりました！

【「湘南里川づくりみんなの会」事務局】

(下) 活動報告 発表資料の一部

ペリットを
はく
(カワセミ)



ペリット:
消化できない骨、
鱗(はらこ)などをかたまり
にして、吐(は)きもどす

カワセミの面白い行動

⑪ スーパーのふくろき、かぶってしまったカルガモ

・川はきれいに
したいですね



野鳥が生きてゆくには、
食べるものと、休むところ、
子育てができる場所、
が必要ひつようです

自然しぜんを大切にしましょう!!

人間のゴミに苦しむ鳥

活動報告の一部紹介

「活動報告」と聞くと堅苦しく思われるかもしれませんが、実際は動画や写真・クイズなどがあり、楽しみながら聞くことができました。

今回は金目川水系流域ネットワークの活動報告にあった野鳥出前授業に関する発表の一部分を紹介したいと思います。

発表では、実際の出前授業で使用している資料により説明が行われました。資料のカルガモはとても可哀想ですよ。

そのような被害を減らすためにも、里川づくりでは清掃、草刈、生き物観察会など河川等の保全・活用に取り組んでいます。興味のある方はぜひ、ご参加ください！

お問い合わせ先

湘南里川づくりみんなの会事務局
神奈川県湘南地域県政総合センター企画調整課
電話 (0463) 22-2711 (内線 2111~3)